

災害時図上訓練を活用した火山噴火緊急減災対策砂防基本図の整備

コンサルタント国内事業本部 流域・防災事業部 河川砂防部 笠原亮一 他

○キーワード

火山防災、緊急減災対策、ハザードマップ、防災訓練、危機管理

○概要

我が国は世界有数の火山国であり、近年では新燃岳噴火において緊急減災対策や避難等の対応を行った。噴火による被害を軽減させるためには、平常時から噴火時等に備えておくことが重要である。ここでは御嶽山において火山ハザードマップに防災上必要な情報（避難先、緊急調査対象の土石流危険渓流、緊急減災対策箇所等）を付加した「御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防基本図」を、防災訓練を活用して整備した事例について報告する。

○技術ポイント

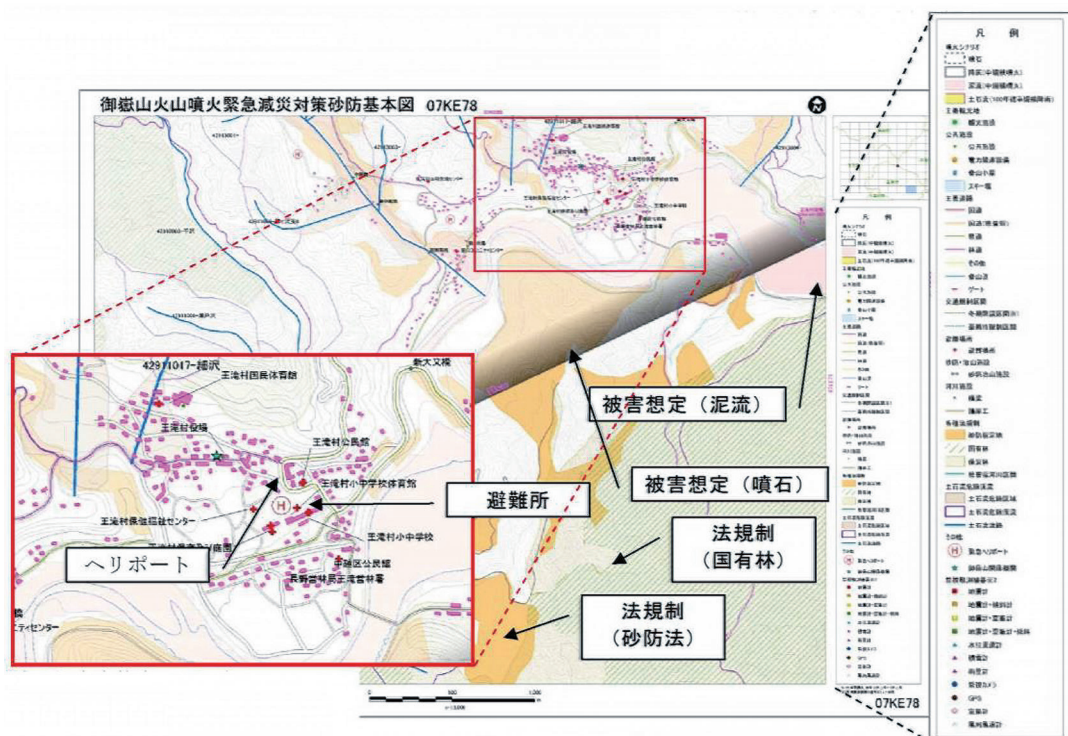
一般的に防災訓練は、関係者の災害時の対応能力の向上や対応手順の確認などを目的とすることが多く、具体的な成果が目に見えにくいケースが多い。今回の訓練は「地図を作成する」という具体的な成果を設定することで、火山噴火時の対応に必要な詳細な情報を集約することができた。具体的な成果の設定例として以下の事例が挙げられる。

- ① 防災上必要な情報を付加した「火山噴火緊急減災対策砂防基本図」の作成（今回の訓練）
- ② 情報共有システムの開発
- ③ 観測計器などの情報収集資機材の改良

本文で記載した DIG ※1 以外にも学習型やロールプレイングなどの防災訓練手法があり、これらの訓練においても詳細な目的に焦点を当てることで、御嶽山の訓練事例のように具体的な成果を生み出すことが可能である。また、焦点を明確にすることで防災訓練マンネリ化を防ぐ効果が期待される。

※1 Disaster（災害）Imagination（想像）Game（ゲーム）の頭文字であり、参加者が災害の状況の変化に応じて場面を想定し、想定される場面や得られる情報から取るべき対応を議論する討論型の訓練

○図・表・写真等



作成した砂防基本図の一例

災害時図上訓練で収集した防災関連情報をハザードマップ上に整理・表示し、緊急砂防対策や警戒避難に活用できる情報を1枚の地図に集約させた。